

# 令和5年度普及活動アルバム

松本農業農村支援センター

令和5年度は、4月にりんご等が凍霜害により大きな被害を受けたため、事後対応指導を行うとともに、その後の状況把握に努めました。それ以降、夏から秋にかけて、これまで経験のない高温となり各種農畜水産物に影響が見られました。地球温暖化に伴い極端な気象変動が頻発するようになり、気象災害に対する技術的な対応、経営安定に向けた収入保険制度を始めとする各種農業保険制度への加入による備えも重要になってきています。一方、国際情勢から食料安全保障の考え方がクローズアップされており、国内農産物の生産増加や農業経営の向上に追い風になることを期待するところです。



## 【通年】

### 経営体への支援

経営課題を解決する意向がある20経営体を重点的に、サポートの専門家（雇用・労務管理や事業継承など）とともに課題解決支援を行いました。また、農業における経営継承を学ぶ農業経営継承研修会を開催し、経営課題を見つめ直す動機付けを行いました。



## 【4月～3月】

### 里親研修生等の支援

県外から来た研修生にとって、栽培技術だけでなく地域とのつながりを持つことが重要です。そこで、関係機関とともに先輩農業者との交流会を開催しました。研修生にとっては、実体験をもとにした先輩農業者の話は、研修中に感じたことや悩んでいることに対して納得のいくことが多くあり、就農への思いをさらに深めていた様子でした。



**【6月～2月】  
アグリマスターセミナー**

農業経営に必要な知識と技術を習得し資質向上を図るため、新規就農者等を対象にアグリマスターセミナーを開催しました。基礎コースでは農業機械の安全な使い方や肥料価格高騰対策の一つとして土壌診断を行いました。経営管理コースでは農業簿記の習得を目指しました。



**【7月】  
農村生活マイスターの活動**

より豊かな農家・農村生活の発展を目指して地域の実践的なリーダーとして農村生活マイスターは活動しています。地元の子ども、女性などを対象に農産物の収穫、調理実習等を行う「安曇野の農業とともに生きる女性たちの交流会」が7月に開催され、参加した子どもたちからは「楽しかった。」と好評でした。



**【8月】  
スマート農業の推進**

果樹栽培で利用可能なスマート農業技術は導入があまり進んでいません。そこで果樹栽培で比較的導入の進んでいる自動運転除草機の実演会を開催し、生産者へ情報提供しました。自動運転除草機は一度セットすれば自動かつ継続的にエリア内の除草作業を行いますが、長く伸びてしまった草への対応等が課題となっています。



### 【4月～7月】

#### タマネギ追肥技術の省力化

タマネギ栽培において、追肥回数を慣行の3回に対して、土壌診断結果に基づき尿素のみの追肥を2回とする省力化実証区を設置して検討しました。その結果、実証区の収量性は慣行区と同等であり、土壌診断に基づく適正な施肥を行いつつ、追肥回数を削減した省力化が可能であることが確認できました。



### 【9月～1月】

#### 農業士協会の活動支援

農業士協会には、松筑支部20名、安曇野支部16名の会員が在籍し、活動を通じて会員同士の交流や資質向上・経営発展につながる取組を行っています。松筑支部では土づくりに係る情報交換、安曇野支部では支部内の視察研修などを行いました。



### 【10月～1月】

#### 農業経営士の活動支援

農業経営士は、地域農業のリーダー的存在で、協会には松筑支部22名、安曇野支部11名が所属しています。安曇野支部では、地元の小学生150名を対象に、5月の摘果から11月の収穫までりんご作業体験を通じた農業教育を実施しました。



**【12月】**

**青年農業者研修会の開催**

若手生産者、新規就農者等の自己研鑽や相互交流のため、研修会を開催しました。県内の青年農業者で構成されるPALネットながの松本地区は、令和5年に課題となった高温障害への対策に関する研修会を開催しました。第2部で「世界で貢献できる農業者を目指して」と題し、講演をいただき、活発な意見交換を行いました。



**【2月】**

**水田農業大規模経営者支援**

安曇野市内の水田農業大規模生産者組織「安曇野.com」の活動を支援しています。ほ場の地力に基づく適正な施肥を検討するため、パックテストに基づく地力窒素の簡易計測の研修会を行いました。輪作体系等に取り組むほ場から土壌を採取し、簡易分析の手法を学びました。



**【10～3月】**

**農地風食の抑制対策**

松本盆地南西部で発生する風食は、地域にとって長年の課題です。松本南西部地域風食防止対策協議会や市町村と連携し、抑制対策試験を実施しました。今年度は、新たな被覆作物（写真：ハゼリソウ）、障壁作物、べたがけネットの対策効果を検証したほか、気象観測やタイムラプスカメラで発生状況の解析に努めました。